

植物の療法効果について

【目次】

第1章 フィトンチッドが体に与える影響

第1節 フィトンチッドの作用

第2節 香りとフィトンチッド

第3節 森林療法

第3章 様々な療法とセラピー

第1節 園芸療法の位置づけ

第2節 園芸福祉

第3節 園芸療法とセラピー

第2章 園芸療法とは

第1節 園芸療法

第2節 園芸療法の歴史

第4章 日本における園芸療法・園芸福祉の活動

第1節 多様な園芸福祉・園芸療法のモデル的取り組み

第2節 園芸療法の効果

【目的】

人間は昔から、植物と大きなかわりを持ってきた。例えば、農業や野生の木や花の採取から最近では観葉植物、植物療法、園芸療法、アロマセラピー、など様々な形でかわりを有してきた。そして、最近注目されているのがいわゆる、「植物の癒し」効果である。植物たちが知らず知らずのうちに私たちを癒すというその効果について調べると共に、園芸療法という形で植物を介した医学的治療法の確立を辿りながら、人間と植物の関わりの歴史を考察する。更に、わが国における植物介在療法の活動を調べながら現代社会における利用可能性を考える。

【方法】

関連文献や調査資料を収集した。園芸療法の治療的効果の症例などを調べ、日本の現状などについて調べた。

【結論】

園芸療法の歴史は18世紀の欧米における精神病の治療から始まる。しかし、19世紀に入ると、当時の道徳観で精神異常と判断された人たちが大量に施設に送り込まれるようになり、施設での園芸療法が困難となった。20世紀になると、趣味やリハビリにも園芸療法の用途も広がるに伴い、園芸療法の概念も治療行為からセラピーまで不明確なものとなってきている。そのため、イギリスなどでは、治療行為として行なう「園芸療法士」としての資格認定がなされるようになってきた。現在、日本では、その歴史も浅いため、園芸療法の専門家が園芸療法を行なう福祉施設や病院はまだ少なく、専門家の数も280人程度に留まっている。

わが国で園芸療法を地域全体で取り入れ活用している先進地として岩手県東和町を挙げることができる。東和町では、病院や福祉施設で園芸療法を行い高齢者・障害者を支援している。東和町での実際の調査報告によれば、調査対象者35名中、すべての対象者が園芸療法を受けることで、人との交流や自立面で有意な結果がみられた。中には、車椅子患者が杖歩行が可能になるとか、深夜徘徊の低下や痴呆の進行の停止など顕著な結果もみられた。このように園芸療法は、これからの高齢社会における高齢者や障害者の社会進出支援にもつながると考えられ、園芸療法の専門家を育成していくことが今後の課題であるといえる。

【参考文献】

B・P トーキン 神山恵三 『植物の不思議な力=フィトンチッド』 講談社 1985年

R・F ヴァイス 『植物療法』 八坂書房 1995年

松尾英輔 『日本における園芸療法の実際』 グリーン情報 2002年

松尾英輔 『植物の不思議パワーをさぐる』 九州大学出版会 2002年